

大会参加者へのご案内（web 最新版）

1.大会受付

場所 東北大学川内南キャンパス文1 講義室前ホワイエ
時間 5月11日（土）9時～18時
5月12日（日）9時～16時

[事前予約参加者の方]

まず受付にお立ち寄りください。受付でお名前をお聞きし、予約参加について確認いたします。その後、参加証をお渡しいたします。

*この部分、事前の案内で間違えておりました。訂正させていただきます。

[当日参加（非会員を含む）の方]

当日参加申込票にご記入のうえ、大会参加費を添えて受付にお申し込みください。参加証と領収書をお渡しいたします。

大会参加費（当日会費）

正会員（大学院生を含む）	7,000 円
一般非会員	8,000 円
学部生会費	4,000 円
学部生非会員（連名者含む）	6,000 円

懇親会費（当日会費）

一般（学生以外）	7,000 円
学生（大学院生含む）	5,000 円

2. 総会・会議

日本感情心理学会の総会は2日目の昼休み（12:00～12:30）に文1 講義室で行います。理事会改選の報告もありますので、皆様ご参集ください。

[関係者の方へ]

理事会は大会前日（5月10日）の18時からホテル大観荘（<http://www.taikanso.co.jp/>）で開催いたします。また、理事の方々は大会1日目（5月11日）の16時45分に文学研究科棟2階大会議室にお集まりください。

編集委員会は1日目の昼休み（12:00～13:00）に文学研究科棟2階の大会議室で開催する予定です。

3.懇親会

文系食堂にて1日目の18時から開催する予定です(20時終了予定)。学会場からは歩いてすぐのところですよ。おいしい宮城の地酒などをたくさん用意しております。どうぞご期待ください。

4.昼食について

1日目の昼食は文系食堂およびパンショップでお摂りください。また、少し離れた(徒歩5分)ところには川内北キャンパスの食堂や購買もあります。それらの他には近隣に食事をするところはありません。会場1階には飲料の自動販売機が複数台あります。

2日目の昼食時は文系食堂は閉店しております。ただし、川内北キャンパスの生協食堂や購買部は昼の時間帯のみ営業しております。

また、両日とも、実行委員会が自信を持ってお勧めするお弁当を1000円にて販売する予定です(ご予約いただいた方優先)。宮城のおいしいものの詰まったお弁当をぜひお試しください。

5. 展示

文2講義室(休憩室)、135講義室(ポスター会場)、文1講義室と文2講義室前のホワイエに、展示スペースを設ける予定です。

6. WEB 環境

実行委員会で特に準備はしませんが、eduroam 参加機関の方はアカウント取得により本校敷地内で無線 LAN が使用できる場所(附属図書館、文系食堂など)があります(<http://www.eduroam.jp/>)。

7. クローク

クロークは133講義室(文学研究科棟1階)に設けております。学会開催期間中、お荷物をお預かりいたしますが、貴重品は身につけてお持ちください。懇親会の間は、懇親会会場にお荷物をお持ちください。

8. 学会大会における行事

・特別講演

5月11日（土曜日）13:00～14:30 文1講義室

演者 原 塑（東北大学大学院文学研究科）

司会 坂井信之（東北大学大学院文学研究科）

指定討論者 荒川歩（武蔵野美術大学）

刑法と感情

—感情に基づく法的判断の健全性—

裁判員制度では、有権者の中から抽選によって裁判員を選び出し、殺人や傷害致死など重大な犯罪に対する裁判に直接関与させている。裁判員は公判に立ち会い、裁判官とともに評議を行い、有罪か無罪か、および有罪の場合にはさらにどの程度の量刑が適切かを決定する。このように、法的判断を下す現場に一般の人々が参加する必要があると考えられるのは、専門家が下す法的判断が一般の人々の道徳的判断からしばしば大きく乖離し、その結果、一般の人々からの支持を司法制度が失っていく恐れがあるからだ。他方、一般の人々が下す道徳的判断が行き当たりばったりであったり、無秩序であったりすれば、司法への市民参加が進んだとしても、司法制度は社会からの信頼を失っていくことになる。

このように、司法制度に一般の人々が直接参加することが正当化されるのは、一般の人々が下す道徳的・法的判断が、ある種の合理性をもつことが期待される限りにおいてである。また、一般の人々の判断にみられる合理性は、弁護士・検事・判事など法の専門家の判断が示す合理性とは異なるはずだ。そこで、このような一般の人々の判断にみられる合理性を、通常の合理性（rationality）と区別して、健全性（reasonableness）と呼ぶことにしたい。

アリストテレスを始めとする哲学史研究や政治哲学上の様々な著作で著名なアメリカの哲学者マーサ・ヌスbaumは、英米法の伝統に依拠して、感情に導かれた一般の人々の判断の健全性を検討する研究を行っている。ヌスbaumは、一方で、法的判断を様々な感情によって根拠づけることの重要性を強調するが、他方で、感情の中には根本的に健全性を欠いたものがあり、そのような感情を法的判断の根拠づけに使用すべきではないと主張する。また、このような健全性を欠いた感情の典型例が嫌悪であるとされる。

この発表では、ヌスbaumの法哲学上の研究を批判的に検討し、また感情に関する心理学・神経科学上の研究を考察しながら、嫌悪を含め感情に導かれた判断が健全性をもつためのいくつかの条件を明らかにする。この考察に基づいて、司法への市民参加を進めるための提言をしたい。

・ 仙台大会記念講演

5月12日（日曜日）11:00～12:00 文1講義室

演者 今村文彦（東北大学災害科学国際研究所副所長）

司会 阿部恒之（東北大学大学院文学研究科）

「東日本大震災における科学の役割～心理学への期待」

従来の評価を大きく上回る規模の地震により巨大津波が発生し、広域で甚大な被害が生じてしまった。そこには、M9の連動した断層破壊があり、海溝での50mを超えるすべり量が第二段階の巨大な津波を発生したと考えられている。従来、三陸沖や宮城県沖で繰り返されていた地震や津波と大きく違うメカニズムであった。しかも、福島原発での事故も重なり、人類が過去経験のない未曾有の影響を与える複合災害の姿となっている。

従来の科学および技術の限界を露呈した中、抜本的な見直しが現在始まっている。自然科学においては、過去の歴史に基づく地震および津波評価手法の問題点を克服する取組、複合災害の実態を解明し評価する試み、さらに、人間・社会科学として、情報発信・認知、避難行動さらには安全社会学の構築に向けての課題整理と解決の取組がある。当時の津波情報の内容、これに対する認知プロセスや対応行動、避難途中での問題などが検討されている。また、過去の被災経験から蓄積された災害文化が十分伝承できなかった状況もあった。今回の経験や教訓を取り入れた災害文化の形成も重要な課題である。本講演の中では、このような活動の一部を紹介させていただき、さらに、地域での復興や今後の防災・減災に資するため、学際的研究である実践的防災学の必要性と期待をまとめたい。

・シンポジウム

5月12日(日曜日)14:30~16:00 文1講義室

企画 中村真(宇都宮大学)

司会 内山伊知郎(同志社大学)

話題提供者 大平英樹(名古屋大学)

小川時洋(科学警察研究所)

谷口高士(大阪学院大学)

宇津木成介(神戸大学)

中村真(宇都宮大学)

指定討論者 大坊郁夫(東京未来大学)

「感情概念の領域横断的検討: 研究の歴史と方法の観点から」

感情研究の分野では、研究者の多くが、明確な定義の欠如という状態に対して特に支障を感じることなく、活発に研究を行っている。たしかに、異なる研究方法によって、多様な「感情」の、多様な側面についての理解が深まることは重要であるが、同時に、個々の研究を体系的にとらえ、全体として総合的に理解することもまた重要である。感情研究の実りある発展のためには、研究対象となる概念を明確化し、共有することが重要である。

概念の明確化のためには、心理学の下位領域において、感情がどのように定義され、用いられているのかを、古典から最新の研究論文にわたる文献研究、研究者へのインタビュー、研究者への質問紙による調査などとともに、研究の歴史と研究方法の観点から分析し、整理することが考えられる。

このシンポジウムでは、このような観点から、学術用語としてわれわれ研究者が感情、および関連概念をどのように使用して来ているのかについて検討を始めることを提案したい。

9. 発表者へのご連絡

[口頭発表の方へ]

口頭発表は 1 題 15 分(質疑を含む)です。10 分で一鈴、12 分で二鈴、質疑応答を含む発表終了となる 15 分に三鈴とする予定です。持ち時間内の時間配分は発表者におまかせします。会場にパソコンを用意しますので、USB メモリ等を用いてあらかじめパワーポイントの原稿等を会場のパソコンにコピーして使用していただくことができます。準備しているパソコンには Windows7 と Microsoft Office 2010 がインストールされています。発表者のご使用のものとは OS やパワーポイントのバージョンが異なる場合がありますので、下位互換を念頭に、特殊な効果を必要としない原稿を作製してください。ご自分のパソコンを持ち込まれても結構ですが、大会実行委員会ではお持ちこみのパソコンの使用によるトラブルについては責任を持ちかねます。設置等にかかわる時間はすべて発表時間に算入させていただきます(実行委員会委員の経験から、Mac のノートパソコンの接続は問題なく可能です)。

[ポスター発表の方へ]

ポスターを貼るボードのサイズは 90cm×210cm です。ただし、ポスターの下部はデッドスペースとお考えください。ポスター貼付用のピンなどは受付で用意しています。

[共通]

配付資料等は事前にご準備ください。会場内で複写機は使用できません(川内北キャンパス購買まで行けば複写機の使用は可能です)。

発表予定者(プログラム上での筆頭者)が何らかの事情で来場できない場合で、連名発表者が代理発表を希望される場合は事前に実行委員会にお申し出ください。

なお、研究発表が成立するためには発表予定者が当日に感情心理学会の正会員であることが必要です。1 号通信で、「非会員は、非会員の学会参加費の納入により、連名発表者となることができます。この場合、主たる発表者は、参加費納入の際に非会員の連名発表者の学会参加費をあわせてご入金ください。」とお願いをしております。非会員が連名発表者となるためには、当日に開催場所に来られるかどうかにはかかわらず、非会員の学会参加費を事前に納入している必要があります。非会員の学会参加費が支払われていない場合、研究発表は成立いたしませんのでご注意ください。

また、一旦ご入金いただいた費用の返金については対応することができません。予めご了承のほどをお願いいたします。

10. 会場までのアクセス

仙台駅までの交通手段

[飛行機の場合]

札幌、成田、名古屋、小松、伊丹、関空、広島、福岡、沖縄から ANA、JAL、IBEX、Peach が運行しています（2013年4月現在）。仙台空港旅客ターミナル2階からは、仙台駅に向かう仙台空港アクセス線に乗り換えていただきます（<http://www.senat.co.jp/index.html>）。仙台空港アクセス線は1時間に2～3本出ており、すべて仙台駅が終着です。約25分（快速は17分）、630円です。

[新幹線の場合]

東北新幹線やまびこ、はやて、こまち、はやぶさなど仙台以遠に向かうすべての列車が停車します。



東北大学川内南キャンパスへの交通手段*

[仙台市バスご利用の場合]

仙台駅前の西口バスプール9番のりば(仙台駅2階コンコースからペDESTリアンデッキを経由して、階段を降りていただくこととなります)から出るバスのうち71x 系統のバスはすべて会場まで参ります。「東北大川内キャンパス萩ホール前」

で下車してください（約 15 分）。料金は後払いで 180 円となります。土日ともに 8～9 時台は 1 時間あたり 9 便ほどありますが、その後は 3～4 便になりますので、ご注意ください。下車後、進行方向に歩くと三叉路の信号があります。信号の付近に看板をおいておりますので、その指示に従い、南へ 2～3 分ほど歩くと会場となります。



[タクシーご利用の場合]

仙台駅よりタクシーをご利用の場合、「東北大学の川内ロータリー」とお伝えいただくと、10 分弱 1200 円程度で、会場付近までお越しいただけます。川内ロータリー付近には案内板を設置しておきます。

駐車場の準備はありません。お車でのご来場はお控えください。

*お詫び

①5 月 12 日は、第 23 回仙台国際ハーフマラソン大会が開催されます。9:15～11:40 の時間帯に交通規制が行われ、仙台駅と大会会場を直接結ぶ区間が車両通行止めとなります (<http://www.sendaihalf.com/ja/index.html> 左側緑色の「交通規制のお知らせ」ご参照)。詳細は、大会会場でもご案内いたしますが、5 月 12 日の移動については、どうぞご留意願います。

仙台駅から大会会場までは、2km 少々ですので徒歩でご来場いただくか、

タクシーの場合は以下地図の迂回路をお通り下さい。その場合、「愛宕上杉通を北上して国道 48 号を西へ。牛越橋経由で川内郵便局前まで」とご指示下さい。川内郵便局前から北キャンパス内を歩いて、徒歩で約 300m 南に下った南キャンパスの会場にお越しください。ご迷惑をおかけしてすみません。



②4月より会場近辺で講義棟の新築工事が始まってしまいました。会期中は工事を休止してもらいますので直接の問題はないと思いますが、マラソンのみならず、何かとご不便をおかけすることになり、申し訳ありません。

大会会場周辺の地図

下記図の通りです。ただし、口頭発表会場、休憩室はいずれも建物の2F となっておりますので、ご注意ください。



11. 大会スケジュール

	大会0日目 5月10日(金)	大会1日目 5月11日(土)	大会2日目 5月12日(日)
9:00		受付開始	受付開始
10:00		開会 口頭発表① (文1)	口頭発表③ (文1)
11:00			仙台大会記念講演 東日本大震災における科学の役割～心理学への期待 (文1)
12:00	仙台駅西ロバ スプール集合 震災復興特別 プログラム 「防災・復興研 究会」 (南三陸町)	休憩	総会 (文1)
13:00		編集委員会 (大会議室)	休憩
14:00		特別講演 刑法と感情 —感情に基づく法的判断の 健全性— (文1)	ポスター発表② (135教室)
15:00		休憩	シンポジウム 感情概念の領域横断的検討: 研究の歴史と方法の観点から (文1)
16:00		口頭発表② (文1)	閉会
17:00		ポスター発表① (135教室)	
18:00		理事会 (大会議室)	
19:00	仙台駅前解散	移動	
20:00		懇親会 (文系食堂)	

凡例	前ページの文学研究科棟1F	前ページの文学部第1講義室
	前ページの文学研究科棟2F	

12. 研究発表（所属は研究発表申込時点での所属です）

※発表者の方は全員、5月19日までに発表論文を大会実行委員会までメールでご送付ください。詳細は大会HPの「発表者の皆様へ」をご覧ください。

（<http://jsre.wdc-jp.com/conf/2013/submit.html>）

5月11日（土曜日）10:00～12:00 口頭発表① 文学部第一講義室

座長 佐藤 拓（いわき明星大学）

- S01 小中学生用攻撃性尺度短縮版の開発
谷 伊織（名古屋大学）
- S02 ユーモアの聞き手の不利益とユーモア認知が弁解者の性格特性の推測に与える影響
菊地史倫（公益財団法人鉄道総合研究所）
佐藤 拓（いわき明星大学）阿部恒之（東北大学）
- S03 抑うつ傾向者における具体的な自伝的記憶の減少—AMT 教示法の検討—
松本 昇（筑波大学）望月 聡（同）
- S04 知覚制御理論における感情の機能に関する一考察
金築 優（帝京平成大学）
- S05 笑いがストレスフルな状況への認知的評価に及ぼす影響
金井雅仁（筑波大学）湯川進太郎（同）
- S06 賞賛的アサーションの効用：ソーシャル・サポート、自己効力感、幸福感との関連
佐藤 拓（いわき明星大学）仁平義明（白鷗大学）
- S07 覚醒水準と唾液中コルチゾールのサーカディアンリズム—生活リズムの観点から
小形佳祐（東北大学）阿部恒之（同）
- S08 ゴミの不法投棄抑制要因と嫌悪感情
中俣友子（東北大学）平野大二郎（同）阿部恒之（同）

5月11日（土曜日）14:45～16:15 口頭発表② 文学部第一講義室

座長 河島三幸（株式会社カネボウ化粧品）

- S09 日本人と中国人の親密なコミュニケーションは何が違うのか？
—未知関係と友人関係を対象にした検討—
木村昌紀（神戸女学院大学）毛 新華（神戸学院大学）

- S10 東日本大震災・復興活動に対する感情的地域差
Wiwattanapantuwong, Juthatip (東北大学)
本多明生 (東北福祉大学) 阿部恒之 (東北大学)
- S11 認知的負荷が賭けの無謀さ・手堅さに及ぼす影響
高田琢弘 (筑波大学) 湯川進太郎 (同)
- S12 情動喚起画像の文脈的複雑性の評価—驚愕反射を用いて—
藤村友美 (独立行政法人科学技術振興機構 ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト)
岡ノ谷一夫 (同)
- S13 青少年教育施設における長期集団宿泊活動が子どもの情動知能に及ぼす影響
庄子佳吾 (国立花山青少年自然の家)
- S14 化粧品の感触が使用者の感情に与える影響—化粧品使用時の感情評価尺度を用いた検討—
河島三幸 (株式会社カネボウ化粧品 価値創成研究所) 引間理恵 (同)

5月11日(土曜日) 16.15~17.45 ポスター発表① 文学研究科棟 135 教室
座長 本多明生 (東北福祉大学)

- P01 被災地における中学生の不安感情に関する研究—東日本大震災直後の調査結果を中心に—
藤井義久 (岩手大学)
- P02 友人間の競争事態における感情表出の制御
山本恭子 (神戸学院大学)
- P03 原子力発電に対する態度研究の現在
本多明生 (東北福祉大学) Wiwattanapantuwong, Juthatip (東北大学)
阿部恒之 (東北大学)
- P04 道徳的アイデンティティと非道徳的行動に対する善悪判断の関係
寺井朋子 (武庫川女子大学) 高井弘弥 (同)
- P05 羞恥表出者に対する観察者のパーソナリティ評価
—評価の因子構造および表情による評価の違い—
福田哲也 (広島大学) 樋口匡貴 (同) 蔵永 瞳 (同)
- P06 主観的感情特性尺度の作成—基本感情に基づいた感情特性の各特徴について—
平井 花 (学習院大学)
- P07 児童期における感情的視点取得能力と学校肯定感、適応感の関係
本間優子 (新潟青陵大学) 内山伊知郎 (同志社大学)
- P08 大学生のソーシャルネットワーキングサービスの利用とEQSの相関
宇津木成介 (神戸大学) 繁野 茜 (同) 松本絵理子 (同)

- P09 印象判断と投資判断にあらわれる学習性不信感の比較
鈴木敦命（名古屋大学）本間喜子（同）
- P10 状況による安堵感の差異
柴田利男（北星学園大学）
- P11 尊敬関連感情の概念構造
武藤世良（東京大学／日本学術振興会）
- P12 仮設住宅の環境色彩変化が居住者の感情状態および周辺住民の印象評価に与える影響
—2011年東北地方太平洋沖地震による被災地域からの一事例報告—
蓑内絵梨（JFE 鋼板株式会社）大岸英夫（JFE 鋼板株式会社）
松原千春（BASF ジャパン株式会社）森下洋子（BASF ジャパン株式会社）
鈴木結花（東北大学）行場次朗（東北大学）

5月12日（日曜日）10.00～11.00 口頭発表③ 文学部第一講義室

座長 手塚洋介（大阪体育大学）

- S15 感情が会話行動に与える影響—他者の会話行動と性差に着目した検討—
藤原 健（京都大学）大坊郁夫（東京未来大学）
- S16 悔しさの持続に関する探索的研究—大学生スポーツ選手を対象に—
手塚洋介（大阪体育大学）
- S17 デジタルゲームが感情経験に与える影響
木村知宏（東京大学）
- S18 ワインボトルを用いた視線のカスケードモデルの検討
大沼卓也（東北大学）荒木茂樹（サッポロビール株式会社）坂井信之（東北大学）

5月12日（日曜日）13.00～14.30 ポスター発表② 文学研究科棟 135 教室

座長 伊藤義徳（琉球大学）

- P13 FAST 学習が表情識別に与える効果—初報—
趙 紫薇（神戸大学）米谷 淳（同）
- P14 反すうにおけるワーキングメモリ内容の更新過程
西村春輝（筑波大学）望月 聡（同）
- P15 日本語版 Dickman Impulsivity Inventory の信頼性と妥当性の検討
小橋真理子（立正大学）井田政則（同）

- P16 身体の覚醒の低下はサイコパシーとリスク選択を結びつけるか—媒介分析による検討
大隅尚広（日本学術振興会特別研究員／慶應義塾大学）
梅田 聡（慶應義塾大学）大平英樹（名古屋大学）
- P17 大学生の震災ボランティア参加を左右する要因の検討
木野和代（宮城学院女子大学）
- P18 取り消し
- P19 笑いが身体的・精神的健康に及ぼす影響
藤原裕弥（東亜大学）
- P20 「居場所感」尺度の作成
岡本卓也（信州大学）口田江里（同）
- P21 親密な他者に対する攻撃行動が生じるメカニズムの検討
伊藤義徳（琉球大学）新垣美羽（医療法人那覇西会 那覇西クリニック）
- P22 情動はどのような神経機構によりその後の選択行動を導くか
—機能的磁気共鳴画像法（fMRI）による検討—
片平健太郎（JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト／理研 BSI／東京大学）
松田佳尚（JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト／理研 BSI）
藤村友美（JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト／理研 BSI）
上野賢一（理研 BSI）浅水屋剛（理研 BSI）鈴木千里（理研 BSI）程 康（理研 BSI）
岡ノ谷一夫（JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト／理研 BSI／東京大学）
岡田真人（JST ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト／理研 BSI／東京大学）
- P23 大学教員は親よりイタい・サムい・ウザくない
—大学生における身体表現性対人不快感の研究(1)—
生駒 忍（川村学園女子大学）
- P24 感謝の対象に関する検討
戸梶亜紀彦（東洋大学）